

2. パネルディスカッション 概略 -1

< 議題1 >

自己紹介を交えた、パネリスト各自の<残したいまちなみ>

岩佐様： 中長期的な観光地作りの視点。
観光客だけでなく、地域の人たちにとって住みやすい環境作りが必要。
観光と景観、集客できる景観と、来てから気付く魅力的な景観。地域性との係り。
復帰後の振興策としての景観作り。本土並みなど全国一律的な整備。
沖縄らしい景観づくりはやと10年。これからが重要。
現在の振興策も年度毎、短期的視点など、上手く活かされていない。課題が多い。

垂見様： 20数年前の島には活気があった。
沖縄の市場(まちぐあ〜)にも活気があった。
これからの若い人達に期待したい。まちなみには人の生活が重要。

藤木様： まちなみは物語。アメリカンビレッジという名前も物語。
新都心はバランスが悪いのではないか？物語が無いからではないか。
まちなみ作りには物語が必要ではないか。

仲本様： 自身の作品「楽園」シリーズは、様々な人たちが共生する沖縄を表現。
赤瓦やトタンの屋根なども素朴な魅力だった。
リゾート開発で魅力的な自然が失われていて、寂しく感じる。

知念様： 佐敷のさとうきび畑、首里の文化全体への拘りがある。
子供達が誇りに思う地域づくり。
同じ沖縄でも集落や地域などによって、大切にしたい景観には違いがある。
観光客の為の景観と、地域の人々の為の景観の違いがあるのではないか。
日本の植民地主義による沖縄の観光振興は本来の沖縄の景観を壊している。
地元住民が思う、美しい沖縄を作っていきたい。

宮城様： 人、ストーリー、歴史、物語などまちなみの捉え方はそれぞれ

鳴海様： 見る景観と、生きる景観、大切にしたい景観もそれぞれ。
地域の生活、歴史を証明する建物なども残すべき。

< 議題2 >

沖縄に取り入れたいまちなみ 景観

垂見様： 妻籠の景観は素晴らしいが、景観規制で縛られている為に生活し辛くなってしまっている。

人が暮らし辛い景観ではなく、暮らし易い景観が必要。
竹富島は上手く行っている。

仲本様： ニューヨークといっても下町などは、沖縄に似ている。

いい加減なところが似ている。

雑多な中にも多種多様な人たちがお互いに気遣いしながら生活している。
景観に関しても、生活感を感じるまちなみが今でも残っている。
電線が全て地下なのは良いことだと思う。

藤木様： 東京など大都市が膨大なお金を掛けて行なうのは良いが、沖縄が真似をすることはできない。

コザのまちなみは残すべきなのか判断が難しい。

花ブロックの昔の公民館を残すべきだったと思う。ガジュマルと公民館。

子供たちの為に大人が心の目で残したい景観を考えるべき。

沖縄の泡グラスもいい加減を追及した良い結果。景観も同じ考え方が出来るのでは。

お金では無く、知恵を出す。

岩佐様： 読売新聞「心の風景」写真集を見ると、地域を代表した美しい風景写真は、静止画ではなく動画、人の動きが感じられる動画景観写真。

観光場所の基準は其処で何枚写真を撮らせるか。

人の居る景観、物語のある景観が大事だと思う。

景観の整理、変わっていくものと、変わらないもの、変えてはならないもの地域が活性化しているから、観光資源となる。

知念様： 現在の首里は宇宙都市みたい、首里ランド。地元住民は住み辛い。

地元住民と観光客が共存できるまちづくりが必要。

しっとり暮らせるまちづくり。

岩佐様： 居住エリアと観光エリアは分けて観光振興する必要性。

鳴海様： 中期的な20年程度の視点では、景気などに左右されてしまう。

世界的にももっと長期的なまちなみ作りが取り組まれ始めている。

ニューヨークも世界的な大都心だが家族が暮らし易い環境整備を進めている。

宮城様： 沖縄は緑が少ない。都会だが東京の方が身近に緑がある。

沖縄にも誰もが集える緑が豊かな公園などが増えると嬉しい。

< 議題3 >

これからのまちなみについて

垂見様： 島に元気が無くなっている。

渡名喜島など市民や子供たちも参加した、まちなみ保全活動を行なっている。
島の住人が進める環境保護と、観光に繋がる環境整備が繋がるのは難しい。

岩佐様： 一括交付金県によって県と市町村が一体で取り組むことが可能となった。

地方で過疎化が進む中、活性化が話題となっている。

郊外型商業施設開発が進み、都市の田舎化、田舎の都市化が進んでいる。

地元住民が住みやすい環境と、残したい環境のバランス。

効率化だけを求めるつまらないまちなみで良いのか。

沖縄らしさをこらから模索していく必要性がある。

宮城様： 国際通りの裏でも都市の田舎化が進んでいる。

電気屋が無い、スーパーが等実感している。

知念様： 琉球政府立法院を壊したのが惜しい。

自然を残す為の公共事業も必要だと思う。

建物も30年40年で壊すのではなく、リフォームして長く使い続けることが必要。

建物の歴史なども大切に受け継いで使っていくこと。

仲本様： サンフランシスコのワインが名産な町には、

壁にガムを投げつけたストリートアートが観光資源となっている。

お金を掛けずに工夫だけで観光資源となる。

沖縄でも同じようなことが可能なのではないか。

まちなみも文化も景観も人が作っていくもの。

藤木様： 県外では10代12代と受け継いでいく工芸が存在する。

沖縄は戦後からがスタート。まだ60数年しか経っていない。

まだ知的な厚みがないから現状がある。拘ること、拘らないこと、これから整理が必要。

全ての地方が東京になる必要はないのではないか。

鳴海様： 神戸でも東日本でも住人が立ち上がらないと復興は実現しない。

お金でも行政でもまちなみ作りは実現しない。地元住人の参加が何よりも必要。